

会 議 録

会議の名称	第2回白岡市中学校生徒の自転車通学に関する意見交換会
開催日	令和6年1月30日（火）
開催時間	午後3時 開会 ・ 午後4時15分 閉会
開催場所	白岡市役所 4階 会議室403
会長の氏名	新井 範 夫
出席者（会員等）の氏名	増田 陽 一 大山 美智子 麻生 雅 彦 青木 春 乃 辻 文 明 柳 和 志 藤井 亮 輔 諸岡 瑞 穂 濱田 貢 志 吉川 すみ子 高橋 茂 雄 岩 楯 浩 志 神田 光 雄 (13名・敬称略)
欠席者（会員等）の氏名	新井 範 夫 佐々木 徹 (2名・敬称略)
説明員の職・氏名	教育部長 阿部 千鶴子
事務局職員の職・氏名	教育指導課主事学務担当 田島 舜 太 教育指導課指導担当指導主事 福岡 拓 弥
会議次第	<第2回 白岡市中学校生徒の自転車通学に関する意見交換会> 1 開会 2 自転車通学に関する事務局説明 (1) 児童生徒への追加アンケート結果について (2) 今後の自転車通学に関する事務局案について 3 協議 4 その他 5 閉会
配布資料	別添のとおり
傍聴者数	1人

<第2回 白岡市中学校生徒の自転車通学に関する意見交換会>

1 開会（福岡指導主事）

開会を宣した。

2 自転車通学に関する事務局説明（柳副会長）

(1) 児童生徒への追加アンケート結果について

福岡指導主事が、会議資料に基づき、来年度中学校に通学する児童生徒に対し行った、自宅と中学校までの直線距離の集計結果について説明した。

(2) 今後の自転車通学に関する事務局案について

福岡指導主事が、会議資料に基づき、中学校生徒の自転車通学に関する対応につ

いて、事務局からの3つの案について説明した。説明に対する、会員からの質疑はなかった。

3 協議

事務局からの説明を受けて、各会員に意見、感想を求めた。

(A会員)

- 生徒の安全、命を守るという観点から考えると案1の自転車通学の運用は見送ることが良いと考える。経験上、事故は自転車が多かった。安心・安全な登下校が重要。

(B会員)

- 生徒の安全上、案1に賛成である。徒歩通学でもグリーンベルト等の改善点がある中で難しいのではないかと。案3については、前回会議資料のアンケートにおいて、距離制限は設けるべきではないという意見が6割を超えていることから難しいと考える。

(C会員)

- 安全上、案1に賛成である。

(D会員)

- 夏休みの部活動など、時間をずらして学校を利用するときは、朝早くや暗くなってから登下校する生徒が見受けられる。不審者対策としての自転車通学はありだと思ふ。案2については、平等性からも1校だけで行うべきではない。実施するにしても実施しないにしても、全校で共通にするべき。高校生になったとき、いきなり自転車通学となると、経験が足りず危険かと思ふ。部活動時だけでも認めることなどが考えられる。

(E会員)

- 2.5km以上だと、中学生の足でも30分以上かかることを考慮すると、自転車通学を考える余地があると思ふ。整備が進んでいない道や、前回会議資料のアンケート結果からも早急な対応は難しいか。夏休みの部活や、暗くなるのが早い部活のときなどは、誓約書を提出する等、約束事を決めながら少しずつやってみてはどうか。案2については、1校のみの実施だとそれ以外の学校からの意見がいろいろなかたちで出てくるのではないかと。案1で工夫できればいいと思ふ。

(F会員)

- この場では、どうすれば実現できるかを考えていくべき。試験的な導入を考えるべきではないか。中学校から高校に進学し、自転車に乗り慣れていない子の事故の可能性が増えると思ふ。慣れる意味でも自転車通学を認めるべきではないか。

(G会員)

- 部活動だと帰りの時などに1人になる場面も増える。そういう時だけでも使えるようにできないか。案2については、モデル校1校だけでやったとしても、学校によって状況が異なるため、自転車通学を許可するのであれば、全校で実施するべき。

(H会員)

- 安全性を考えると案1だと思うが、自転車通学を認めて欲しいという保護者の気持ちがあるのは確か。実施するのであれば全校で土台を作っていくように進めていけたらいいと考える。

(I会員)

- 警察の立場からは、正しい知識を身に付けて安全に乗っていただきたい。無事故・無違反表彰の取組をしていた際に、警察で把握している件数と教育委員会で把握している件数が合わないということがあった。これは事故を起こしても届け出ていないということ。許可制にすると、無許可で乗って事故を起こし、黙っているという状況が起りうるため、対策が必要になるか。高校1年になり、自転車事故が増加している事実があるため、どのように実施していくにしても、知識を身に付けさせることが必ず必要と考える。

(J会員)

- 案2については、1校だけやればいいのかという意見が出てくることが考えられる。案3については、遠いから実施するのか、自転車通学の目的は何かという問題になってくる。このようなことを考えると案1になるのかなと思うが、その際は、校長・PTA・生徒から意見をもらいながら、交通安全対策を実施していく必要があると考える。交通安全教室等の啓発を保護者含め、生徒に対し実施することなどを行いながら、ただ見送るのではなく、どうしていくかをもう少し話していったほうがいいと考える。

(K会員)

- 市内の道路状況を考えると、通学路において自転車道が完備されておらず、一斉に通学するとなると怖いと思う。ただし実施する場合には、全校一斉に実施するほうが不平等感もないと考える。距離を指定するとなると、同じくらいの小学生のほうが体力的にも配慮する必要があるのではないかという問題もでてくる。

(L会員)

- 自転車通学を認めたいと考えるが、歩行者の延長線上ではなく、ドライバーであることを教えてあげる必要があると考える。

(M会員)

- 市内の道路状況と登校時に集中することを考えると、現状認めることは難しいと感じる。案2については、1校だけだと多少の不公平感がでてしまう。案3については、距離で1部の生徒だけ認めるとなると、認められていない生徒と二人乗りをするおそれがあり、慎重に考える必要がある。ただし、高校入学前に自転車に慣れる必要はあると考える。チェーンがはずれたときなどのトラブルの対処法を学ばせることも必要だと思う。部活動時だけ認めるといった始め方が考えられる。

- 自転車通学が認められていた学校では、事故が起きた時の初動は中学校の先生であった。
➡ 登下校のことは、学校に全てお任せと考えている保護者もいるため、周知が必要と考える。

- 近隣の状況としては、市内一斉に開始したところがあれば、一部から開始したところもある状況。
- 自転車通学が認められている学校に勤めていた際、認めている理由としては、不審者対策という説明がされた。
- 許可制の学校では、通学のルート申請し、申請したルートと異なるところの事故は保険の適用外とされた。
- 認めている学校では、ヘルメットやレインコートが指定された。雨が降った際は、駐輪場で乾燥させていたことから、駐輪場が整備されていないと厳しいと思われる。また、盗難なども発生していた。
 - ➡ 整備・指導の負担が大きくなることが考えられる。
- 保護者としては、少しでも登下校の時間が短くなる自転車のほうが、不審者対策として安心できる。
- 荷物が多いことを考えると、荷台付きの自転車を指定する必要があるか。
- 日が暮れるのが早い冬期のみ、自転車通学を認めている学校があった。
- 篠津小・中等隣接している学校については、学校前の道はしばらく手で押して歩くなどの条件付けが必要か。
- 自転車の乗り方については、通学を通じて身に付けている実情がある。通学時の地域の方や先生の声掛けなどの機会がないと身につけるのは難しいか。
- 家庭における協力も必須か。
- 交通安全教室を開いてもその場で疑問を聞かない子が多い。細かい法律等について、勉強会等を後追いで実施する必要があるか。

(事務局)

- 土・日曜日や部活動時のみ許可することを案4とすると、知識などを身に付けさせながら、考えていくとする案1と比べてどう思うか。
 - ➡ 現状で全く問題なく動いていると感じている。また、この会が決める場ではなく、意見交換の場だと考えると難しい。
- 今後、土・日の部活動が地域クラブ活動となった時、事故の際の対応をしっかりと考えておく必要がある。フローチャート等を作成し、周知を徹底しないと、地域移行により教員の負担が軽減しても、事故発生時の教員の負担が大きくなるおそれがある。
- 篠津・菁莪中学校は駐輪場があるが、南・白岡中学校にはない。
- せっかく自転車通学が話題にあがっているのだから、当面見送るにしてもそれはいつまでなのか、自転車通学を認めるとしたら、学校を自由に選択できるようにしたらどうかなど、決める場でないのだとしたら、一歩進んで何か考えることができたらと思う。

4 その他（福岡指導主事）

次回（第3回）について、開催するかどうかを含め、後日改めて通知する旨を説明した。開催する場合は、3月6日（水）・3月7日（木）あたりを予定。

5 閉会（福岡指導主事）

閉会を宣言した。